

# 検索画面

書名/タイトル、キーワード、件名/主題語、著者名、ISBN/ISSN、出版者/ジャーナルの中から選択して検索できる

DB チェック検索画面 (A)

DB アウト検索画面 (B)

図書館の選択方法が(A)と変わりますが、検索方法自体は変わりません。

①	初期画面	DB チェック検索画面 公立図書館全選択の状態（「選択チェック保存」をしている時はその状態）
②	選択チェック保存	利用者が検索したい機関を選択した状態で保存できる
③	文字パレット	簡単に多国語・特殊文字を入力できる
④	検索履歴	検索履歴がさかのぼって最大 10 件まで保存され再検索できる。
⑤	人気検索語	人気検索語ベスト 5 が表示される。（横断検索の全検索中）
⑥	データ取得件数	各機関より取得するデータ件数の単位で、30・40・50 から選択できる。既定値は 30。
⑦	検索画面の切替	グループ下にある各機関の表示・非表示を全体で切り替える
⑧	検索機関の全選択	登録されている機関をすべて選択する
⑨	選択解除	検索指定した機関をすべて解除する
⑩	選択グループが上部へ移動	該当グループが最上位に表示され検索の順番を変えることができる
⑪	DB アウト検索画面への切替、詳細指定	「DB チェック検索画面」と「DB アウト検索画面」の表示切替 DB アウト画面では検索対象館を細かく指定することができる
⑫	各館 HP ヘリンク	各機関のホームページへリンクしている
⑬	各機関の表示・非表示を指定	グループ下にある各機関の表示・非表示を切り替える

# 検索結果画面



1	初期画面	DB チェック検索画面 公立図書館全選択の状態（「選択チェック保存」をしている時はその状態）
2	再検索	検索語と検索機関のチェックが残った状態で画面が表示される
3	全体	表示されているデータのチェックボックスにチェックがつく
4	結果保存	複数の書誌データを HTML 形式または Excel 形式で一括保存できる
5	絞り込み検索	検索結果が多い場合、条件を追加して絞り込みを行うことができる
6	1 ページの表示件数	検索結果の表示件数で 10・20・30 から選択できる。既定値は 10。
7	画面表示の切替	書誌情報のレイアウト（基本形式・テーブル形式）を切り替える
8	ページ送り	ページ送りを行う
9	個別の結果保存	各書誌データを HTML 形式または Excel 形式で保存できる
10	全所蔵館	ILL システムとの連携。各検索機関の所蔵情報をまとめて確認できる。
11	クラスターリング表示	検索機関より取得したデータをもとに集計した結果上位 5 件を表示
12	全表示	上位 6 件以下がすべて表示される
13	RELOAD	検索結果件数が検索件数（既定値のままだと 30）以下の場合には表示されない。 このボタンを押下した時点までに収集された情報でクラスターリングの再構築を行う。 ページ送りをする度に取込件数が増えていくため、再構築したい場合には押下する。
	Pass	資料検索中に表示される。検索を中止する。